

# イノシシ被害の初発地域における被害拡大の防止対策 ―新潟県長岡市蓮花寺集落―

- 被害発生初期から研修会や専門家による集落環境診断を経て、地域でまとまりをもって被害対策を実施する気運を醸成
- 電気柵は、地理的状况等を踏まえて団地化し、被害の発生状況をみながら複数年かけて整備
- 捕獲活動については、捕獲檻やくくりわなの設置、猟銃によるまき狩りにより個体数を増やさないように配慮

## 経過

【平成24年】

- 水田内で稲株の踏み荒らしや畦畔、農道等の破壊が見られるようになる

【平成25年】

- 被害箇所・内容の調査・集計を開始



《イノシシ水稲被害》

【平成26年】

- 長岡市病害虫防除協議会が電気柵の現地実証を実施し、効果を確認
- 専門家による被害対策・電気柵設置等の研修会を開催（主催：市防除協）
  - ・ 7月 イノシシ対策現地研修会
  - ・ 11月 野生鳥獣被害対策指導者育成研修会
- 集落で電気柵による被害防止に取り組むことを決定（被害の大きい圃場から順に複数年かけて設置する計画）



《電気柵設置図》

## 主な対策のポイント

- 発生初期からの被害低減対策の実施

被害発生後早い段階で研修会を通じて被害対策の必要性の意識を向上

集落で話し合いを重ねて、共同で電気柵を管理することを合意（H26年）



《集落環境診断》

- 電気柵の共同管理



《H27年電気柵設置研修会》

年3回集落全体での草刈日を決めるなど、電気柵周辺の雑草を管理

役員が定期的に電圧を確認するなど、集落全体で効果的な管理を実践



《役員の見回り》

- 実施隊による捕獲活動

平成28年から長岡市が要請・指示する長岡市鳥獣被害対策実施隊（市内猟友会推薦者を任命・発足時151名）が捕獲活動を実施



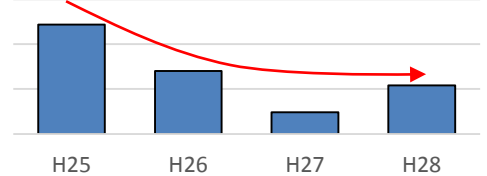
《捕獲活動》

## 対策の実績・今後の課題

- イノシシによる農作物被害の推移

蓮花寺集落での被害は、電気柵を設置したことで減少した。しかし、市全体をみると、イノシシの生息域が拡大したことで電気柵を設置していない地域の被害が増加傾向

長岡市全体のイノシシ被害額（推移）



- 実施隊の活動実績（イノシシ）

個体数を増加させないため、まき狩り等による捕獲活動を継続

年度	延べ時間	延べ人数	捕獲実績（銃器、罟）	まき狩り回数
H28	4,213hr	529人	38頭	25回
H29	3,976hr	568人	17頭	29回

- 蓮花寺集落の声



電気柵を設置したほ場では、水稲の踏み荒らしやほ場の破壊などの被害が無くなり、喜んでます。

電気柵を団地化したことで、共同でイノシシ対策を実践する意識が高まっています。

# イノシシ被害の初発地域における被害拡大の防止対策 ―新潟県長岡市蓮花寺集落―

## ◆被害の全容把握

地元役員と市職員が協力して被害の全容把握を開始

## ◆どんな対策が効果的かわからない…

農林水産省・農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーのアドバイスを受けながら、長岡市病害虫防除協議会（以下、「市防除協」）が電気柵の実証試験を実施

## ◆誰が対策の主役なの？（研修会等による地域の意識醸成）

蓮花寺農家組合を対象としたイノシシ対策研修会（市防除協主催）で集落がまとまって対策することの重要性を理解

### きっかけ

- ・沢の上流・林縁の水田でイノシシ被害が発生（稲踏み荒らし、畦畔等の破壊）
- ・効果的な対策がわからない

### Step1 (H25～) 地元での被害把握

- 地元農家組合と市三島支所が協力して地域の被害状況について調査、集計を開始
- 年間を通じて被害写真を撮影し、対策の検討材料として整理

### Step2 (H26) 実証ほ設置による検証

- 前年に被害が大きかったほ場で、電気柵の設置効果を確認する実証ほを設置
- 実証ほにおける被害の発生がみられず、電気柵の効果を実感

### Step3 (H26) 地域の合意形成

- 実証ほでの電気柵の効果確認や研修会を通じて、地域がまとまりをもって対策することの重要性を認識
- 電気柵設置を市防除協に要望

地域が主体となって対策することの必要性について、早い段階で理解を得られた

### 取組に当たっての秘訣

- 初めは何をしてよいかわからなかったが、農林水産省・農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーからアドバイスを受けられたことが転機
- アドバイザーによる集落環境診断や研修会等を通じて「誰かに何とかしてもらいたい」から「自分達は何をしたらよいのか」に地域の意識を転換させるプロセスが何よりも重要
- 農家毎に考え方が違うが、効果的な対策とするために地域でまとまった対応となるようアドバイザーのアドバイスのもと話し合いを重ねることで、地域が一体となった取組とすることができた

### 将来に向けて

- 住民が行う「自助」、集落単位で行う「共助」、行政が行う「公助」により、住民と行政が一体となって行う総合的な対策を市全域で展開する



《市内外からの視察の受け入れ》

### Step4 (H27～) 電気柵の導入

- 被害の大きいほ場から順に複数年にわけて、計画的に電気柵を整備（地理的条件等を勘案して団地単位で設置）
- 電気柵の適切な設置や維持管理のための設置指導研修会の開催、電気柵の機能診断を実施（市防除協主催）
- 集落全体での草刈実施や役員による定期的な電圧測定など、電気柵を適切に維持管理できる体制を構築

電気柵設置ほ場での被害がゼロに

### Step6 (H30～) 他地域への波及

- 蓮花寺集落での被害は見られなくなった
  - イノシシの生息域拡大に伴い、市内の他地域でも同様の被害が発生
- 蓮花寺集落での取組をモデルケースとして他地域へ波及

取組を経て…

### Step5 捕獲の強化

- 猟友会任せの捕獲ではなく、長岡市が要請・指示する長岡市鳥獣被害対策実施隊を設置
- 実施隊による組織的・効率的な捕獲活動（まき狩り等）を実施し、生息頭数の増加を抑制
- 長岡科学技術大学が調査・研究した地域におけるイノシシの生態については、研修会を通じて地元と情報共有